

同志社大学における大学院レベルでの図書館情報学教育

原 田 隆 史

2015年4月より同志社大学は大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻に、新たに図書館情報学コース（以下、「図書館情報学コース」とする）を開設することとなった。この図書館情報学コースは図書館員を中心とした情報関連専門家の再教育と、図書館情報学の研究者養成の両方を目的とするもので、図書館情報学の理論や研究手法および図書館政策、図書館経営、各種メディア、情報サービス、情報システムなど広い範囲の専門的な内容を取り扱うことを予定している。

同志社大学の図書館司書課程は1952年に開設され、長年にわたって活発な活動を続けてきており⁽¹⁾、過去においても一時期同志社大学大学院文学研究科教育学専攻および、それが改組された社会学研究科教育文化学専攻において教育が行われてきた。実際に、渡辺信一教授および大城善盛教授が教鞭を取られていた2002年～2004年にかけて同志社大学は図書館情報学を専門分野とする4名の修士号取得者を輩出している。このうち3名は図書館情報学の専任教員として、また残る1名も大学図書館員として勤務するかたわら大学でも教鞭をとるなど、修了生は大いに活躍してくれている。しかし、この4名をもって同志社大学大学院における図書館情報学の修了生はとどえており、関東の慶應義塾大学や図書館情報大学(現在の筑波大学情報学群知識情報・図書館学類)が大学院修士課程・博士課程を充実させ、数多くの研究者や専門家を輩出しているのと比較すれば、同志社大学における大学院教育は残念ながら低調であったと言わざるをえない。また、前述の時期においても授業としては図書館情報学に関連する科目は数科目開講されたのみであって、図書館情報学を中心に据えたカリキュラムが実現されていたわけではない。同志社大学の図書館情報学教育に関わる人々にとって、このたび開設されることになった図書館情報学コースのような大学院レベルの図書館情報学を中心とした教育体制の実現は長年の悲願であったともいえよう。

図書館情報学コースの詳細については本誌の記事でも紹介しており、また Web ページでもさまざまな情報を公開しているが⁽²⁾、図書館情報学に関する幅広い範囲の授業科目を開講すると共に院生の興味に応じた研究が行える環境を提供している。また、社会人でも学びやすい環境を提供しており、大学を卒業して図書館情報学を深く学ぼうとす

る学生はもとより、関西在住・在勤の図書館員や情報専門職の人々にも興味を持ってもらえると思われる。2015年4月には社会人6名を含む8名が、新たに出発となる同志社での大学院レベルの図書館情報学教育を学ぶ第1期生として入学されることになっている。担当教員の間で今後の教育に関するビジョンはあるものの、実際にどのような教育・研究指導を実現し、人材を輩出していくかは、入学する第一期生と、ともに歩みながら考え続けていくことになろう。同志社大学における学部課程での図書館司書課程・学校図書館司書教諭課程と共に、引き続き大学院図書館情報学コースの今後についても注目いただければ幸いである。

注

- (1) 青木次彦, “同志社大学図書館学教育史稿”. 図書館学の教育. 日本図書館学会研究委員会編. 日外アソシエーツ, 1983, p.41-64.
- (2) 同志社大学大学院 図書館情報学コース.
<http://www.slis.doshisha.ac.jp/grad/> (参照 2015-03-06)

(はらだ たかし。社会学部教授、図書館司書課程主任)